

## 説教題：**真の葡萄園の労働者**(14～16)

聖書:マタイ 20章1～16節

<口語訳>

新約聖書30～31頁

マタイ 20章1～16節

<新共同訳>

新約聖書31～ 頁

マタイ 20章1～16節

<新改訳第3版>

新約聖書39～40頁

マタイ 20章1～16節

<塚本訳>

新約聖書127～128頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト**様の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇ 本日は、**マタイ20:1～16節**の箇所から、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**真の葡萄園の労働者**(14～16)」は、先週の「**地上の思いを天に繋げてくださる主**(19～20)」を受けて、弟子たちに語って下さった霊のいのちを失わないようにとの戒めを与えて下さったのです。
- ⇒「**真の葡萄園の労働者**(14～16)」は、主から「**金持ちの青年と神の国**」の譬えを聴かされ、「**最後の者が一番になり、一番の者が最後になる**」の主のみことばを受け、「**神の国**」でのしもべの働きを示されたものです。
- ⇒「**神の国**」においては、この世の常識が通じないことがあることを暗に示しておられます。
- ⇒**神の公平**と人の公平は、同じではないのです。

本論；

◇本日、**マタイ書20章1～16節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ20章1～16節**；**使徒マタイ**は、「**真の葡萄園の労働者**(14～16)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ20:1～16節**；**塚本訳**◆

葡萄畑の労働者の譬<1～16>

- 1 (なぜであろう。)天の国は、家の主人が夜の引明けに出ていって、葡萄畑に労働者を雇うのに似ているからである。
- 2 一日一デナリ[五百円]の約束で、労働者たちを葡萄畑にやった。
- 3 また九時ごろ出ていって、ほかの労働者が何もせずに市場に立っているのを見て、
- 4 『あなた達も葡萄畑に行きなさい。やるだけのものはやるから』と言うと、
- 5 その人たちも行った。十二時ごろと三時ごろにまた出ていって、同じようにした。
- 6 (最後に)五時ごろ出ていって見ると、(まだ)ほかの労働者が立っていたので、言う、『な

ぜ一日中何もせずに、ここに立っているのか。』

- 7 彼らがこたえる、『だれも雇ってくれないのです。』彼らに言う、『(まだ一時間は働ける。)あなた達も葡萄畑に行きなさい。』
- 8 さて夕方になると、葡萄畑の主人が監督に言う、『労働者たちを呼んで、賃金を払ってやりなさい、(逆に)最後の者から始めて最初の者まで。』
- 9 そこで(まず)五時ごろの者が来て、一デナリずつ貰った。
- 10 最初の者は来て、(あの連中が一デナリなら、)自分たちは余計に貰えるものと思っていたところ、彼らも一デナリずつ貰った。
- 11 そこで貰ったとき、家の主人に向かって不平を
- 12 言った、『この最後の者は(たった)一時間しか働かなかった。われわれは一日中、重労働と暑さを辛抱したのに、あなたは同じ扱いをされたではないか。』
- 13 主人がその一人に答えた、『君、わたしは何も間違ったことをあなたにした覚えはない。一

デナリの約束ではなかったのか。

- 14 自分の分を取って帰りたまえ。わたしはこの最後の人に、あなたと同じだけやりたいのだ。
- 15 わたしのものを、わたしがしたいようにしてはいけないのか。それとも、わたしが親切をしてやったのが羨ましいのか。』
- 16 このように、最後の者が一番になり、一番の者が最後になるであろう。と、**使徒マタイ**は主のことばを語って います。

◇**マタイ20:1～2節**:「(なぜであろう。)天の国は、家の主人が夜の引明けに出ていって、葡萄畑に労働者を雇うのに似ているからである(1)」、「一日一デナリ[五百円]の約束で、労働者たちを葡萄畑にやった(2)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**真の葡萄園の労働者(14～16)**」は、約束に忠実な者であることをお示しです。

⇒「**真の葡萄園の労働者(14～16)**」は、一日一デナリで、葡萄園の主人と契約した者でした。契約違反は、雇用の解除になりかねません。

⇒天国も、**神**との契約が最も大事なのです。

◇**マタイ20:3~16節**；「また九時ごろ出ていって、ほかの労働者が何もせずに市場に立っているのを見て(3)」、「『あなた達も葡萄畑に行きなさい。やるだけのものはやるから』と言うと(4)」、「その人たちも行った。十二時ごろと三時ごろにまた出ていって、同じようにした(5)」、「(最後に)五時ごろ出ていって見ると、(まだ)ほかの労働者が立っていたので、言う、『なぜ一日中何もせずに、ここに立っているのか。』(6)」、「彼らがこたえる、『だれも雇ってくれないのです。』彼らに言う、『(まだ一時間は働ける。)あなた達も葡萄畑に行きなさい。』(7)」、「さて夕方になると、葡萄畑の主人が監督に言う、『労働者たちを呼んで、賃金を払ってやりなさい、(逆に)最後の者から始めて最初の者まで。』(8)」、「そこで(まず)五時ごろの者が来て、一デナリずつ貰った(9)」、「最初の者は来て、(あの連中が一デナリなら、)自分たちは余計に貰えるものと思っていたところ、彼らも一デナリずつ貰った(10)」、「そこで貰ったとき、家の主人に向かって不平を(11)」、「言った、『この最後の者は

(たった)一時間しか働かなかった。われわれは一日中、重労働と暑さを辛抱したのに、あなたは同じ扱いをされたではないか。』(12)、「主人がその一人に答えた、『君、わたしは何も間違ったことをあなたにした覚えはない。一デナリの約束ではなかったのか(13)」、「自分の分を取って帰りたまえ。わたしはこの最後の人に、あなたと同じだけやりたいのだ(14)」、「わたしのものを、わたしがしたいようにしてはいけないのか。それとも、わたしが親切をしてやったのが羨ましいのか。』(15)」、「このように、最後の者が一番になり、一番の者が最後になるであろう(16)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「ぶどう畑で働く労働者」を雇うため、4回も、出かけて行って、招いて下さった。

⇒5時に招かれた人には、「まだ一時間働ける」と、葡萄園の管理者(神)は、仰せになり、労賃は、最後に招かれた者から契約の通り、一日一デナリを払って下さった。

⇒最初から働きに来ていた者たちは、賃金の支払いが不公平であると訴えたのです。彼らは、管理者の思いに気づきませんでした。

⇒管理者は、「『君、わたしは何も間違ったことをあなたにした覚えはない。一デナリの約束ではなかったのか(13)』、「自分の分を取って帰りたまえ。わたしはこの最後の人に、あなたと同じだけやりたいのだ(14)』、「わたしのものを、わたしがしたいようにしてはいけないのか。それとも、わたしが親切をしてやったのが羨ましいのか。』(15)」と、働く労働時間ではなく、約束にもとずき、賃金を支払いたい思いを語られたのです。「わたしが親切にしてやったのが羨ましいのか」と、不平を言う者の心を見抜いて、賃金を払うのは、管理者であると、暗に含めて、仰せになったのです。

⇒**マタイ20:16節**は、**マタイ19:30節**と同じ表現で、「先の者」は、先に招かれたキリスト者や長く教会の奉仕をし来られた方々でしょう。

⇒後の者は、残り僅かの時に招かれた信仰のイロハもまだわきまえていない人々かも知れません。

⇒後の者が、先の者を見下すのは、勿論問題ですが、先の者が、後の者に対して誇るのは、もっと大きな過ちです。



⇒Ⅱコリント10:10～18;【口語訳】

10 人は言う、「彼の手紙は重味があって力強いが、会って見ると外見は弱々しく、話はつまらない」。

11 そういう人は心得ているがよい。わたしたちは、離れていて書きおくる手紙の言葉どおりに、一緒にいる時でも同じようにふるまうのである。

12 わたしたちは、自己推薦をするような人々と自分を同列においたり比較したりはしない。彼らは仲間同志で互にはかり合ったり、互に比べ合ったりしているが、知恵のないしわざである。

13 しかし、わたしたちは限度をこえて誇るようなことはしない。むしろ、神が割り当てて下さった地域の限度内で誇るにすぎない。わたしはその限度にしたがって、あなたがたの所まで行ったのである。

14 わたしたちは、あなたがたの所まで行けない者であるかのように、むりに手を伸ばしているのではない。事実、わたしたちが最初にキリストの福音を携えて、あなたがたの所までも

行ったのである。

15 わたしたちは限度をこえて、他人の働きを誇るようなことはしない。ただ、あなたがたの信仰が成長するにつれて、わたしたちの働きの範囲があなたがたの中でますます大きくなることを望んでいる。

16 こうして、わたしたちはほかの人の地域ですでになされていることを誇ることはせずに、あなたがたを越えたさきざきにまで、福音を宣べ伝えたい。

17 誇る者は主を誇るべきである。

18 自分で自分を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ、確かな人なのである。

⇒教会は、労働の時間、労働の質などで、比較するところではなく、互いが仕えられるためではなく、仕えるため、多くの人のためにいのちを十字架の上で捨てて下さった主の心・思いをもって、生きる群れです。

⇒主は、弟子たちに、ご自身の思いを共有することを願い、忍耐して、譬えをもって、天の国を葡萄園とそこでの労働、果実の収穫になぞらえて下さったのです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ20:1～16節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**真の葡萄園の労働者**(14～16)」は、先週の「**地上の思いを天に繋げてくださる主**(19～20)」を受けて、弟子たちに語って下さった霊のいのちを失わないようにとの戒めを与えて下さったのです。
- ⇒「**真の葡萄園の労働者**(14～16)」は、主から「**金持ちの青年と神の国**」の譬えを聴かされ、「**最後の者が一番になり、一番の者が最後になる**」の主のみことばを受け、「**神の国**」でのしもべの働きを示されたものです。
- ⇒「**神の国**」においては、この世の常識が通じないことがあることを暗に示しておられます。

⇒**神の公平**と人の公平は、同じではないのです。

⇒ピリピ<sup>2</sup>:3~11;【口語訳】

- 3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。
- 4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。
- 5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。
- 6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、
- 7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、
- 8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。
- 9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。
- 10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

⇒互いが、仕え合うために、主の葡萄園で労働させていただいている同じ管理者のもとにあり、管理者の思いを共有して労苦し合うことが、大事です。

⇒そねみ、妬みは、何の益ももたらさず、破壊と群れの分裂などをもたらすのみです。

⇒主の葡萄園・天の国で、管理者の愛と真実と憐れみを信じて、管理者である主に感謝し、祈り、讃美して行きたいと願います。